平成２３年（２０１１年）度

金沢大学大学院法務研究科

入学試験問題

小論文

（注意）
１．問題冊子（表紙を含む）は１０枚です。
２．問題冊子は指示があるまで開かないで下さい。
３．問題冊子と下書き用紙は持ち帰って下さい。
４．解答は、鉛筆、シャープペンシル、ペン、ボールペンのいずれで記入しても構いません。
５．問題１と問題２の解答は、別々の解答用紙に記入してください。

平成２３年度（2011 年度）金沢大学大学院法務研究科入学試験問題

試験科目	小　　論　　文

※　問題１と問題２の解答は、それぞれ別の解答用紙を用いること。

［問題１］

出典：柳田邦男・ドナルド・クレイビル（構成　今田幸伸・池田洋一郎）「対談　犯罪とゆるし」（朝日新聞２００９年７月８日朝刊１２版１５面）による。

（問い１）

クレイビル教授は、下線部２にあるように、アーミッシュの「ゆるし」は「現代社会のモデルにはなり得ないかもしれません」と述べている。しかし、柳田氏は下線部１のように「ゆるすかゆるさないかの中間に、何か選択肢があるのではないでしょうか」としており、さらに両氏はそのようないわば「中間的解決」の具体例をそれぞれ挙げている。両氏のあげる「中間的解決」の具体例を、合わせて２５０字以内でまとめなさい。

（問い２）

本対談では明示的に言及されていないが、「中間的解決」が現代社会にとって有用なものであるとすれば、なぜ有用といえるのか、アーミッシュの「ゆるし」と関連づけて、２５０字以内で述べなさい。

［問題２］

出典：本田由紀「格差社会における教育の役割」（同『軋む社会』（双風舎、２００８年）所収））による。

（問い１）
下線部１の「機会の罠」とはどのようなことをいうのか、１５０字以内で答えなさい。

（問い２）
下線部２の意味していることを、１５０字以内で説明しなさい。

（問い３）
本論文の下線部３以下において、著者は、日本社会において、教育格差を現状よりも可能な限り縮小するために取り組むべき課題を論じている。そして、下線部４において、「学力格差を縮小するためのもうひとつの方策」という意味で、「子どもや若者の現在、そして将来の生活と仕事に対する教育内容の関連性や意義（レリバンス）を高めること」が必要であると説いている。この箇所において著者はどのようなことを主張したいのかを考え、２００字以内で論じなさい。

（問い４）
下線部５で言及されているように、「子どもや若者の実生活や関心事と教育内容を密接に関連づけ、学習した内容が教育の外部社会で生きていくうえで有益・有効なものとなるように変革する」ために、教育内容に盛り込むべき事項としてどのようなことがらがあると考えますか。著者の提案する、労働者の権利についての知識という例以外に、あなたの提案する具体例を６００字以内で述べなさい。